

令和8年(2026)5月1日現在

## 指定区分や名称の変更があった文化財

ページ	旧	新
P31	国指定記念物 (天然記念物・史跡)城山	国指定記念物(天然記念物)城山 国指定記念物(史跡)鹿児島城跡
P70	県指定記念物(史跡)鶴丸城跡	国指定記念物(史跡)鹿児島城跡
P71	県指定記念物(史跡) 福昌寺跡	国指定記念物(史跡) 鹿児島島津家墓所 (令和2年3月10日指定)
P93	市指定有形文化財(工芸品) 小田派諸工匠の鐔24枚 所在地:鴨池一丁目 所有者:松元久雄	小田派諸工匠の鐔 所在地:鹿児島県歴史・美術センター黎明館 所有者:鹿児島県
P136	市指定記念物(史跡) 天保山砲台跡	県指定記念物(史跡) 天保山台場跡 (令和7年4月30日指定)
P137	市指定記念物(史跡) 祇園之洲砲台跡	県指定記念物(史跡) 祇園之洲台場跡 (令和4年4月26日指定)
P182 ~P184	国登録有形文化財(建造物) 児玉家住宅主屋・井戸屋・表門	解体により登録抹消

## 新たに指定された文化財

### ・県指定文化財

名称	出水貝塚出土品 附 書簡 (いずみかいづかしゅつどびん つけたり しょかん)
区分	県指定有形文化財(考古資料)
指定年月日	令和3年4月23日
所在地	鹿児島女子短期大学
所有者	鹿児島県、出水市、個人
概要・写真	出水貝塚では、縄文時代早期の押型文土器が、中期～後期の阿高(あだか)式土器や出水式土器などが貝層をはさんで違う層から出土し、これらの土器が異なる時期のものであることが初めてわかった貝塚です。そのほか、石器・貝製品・骨角器も出土しています。中でも石製垂飾品は、別の石製垂飾品を再利用した例として重要です。また縄文時代の埋葬人骨も出土しています。出水貝塚出土品は、縄文早期及び中期～後期の九州における文化などを考える上で貴重な文化財であり、令和4年には、大正9(1920)年に出水貝塚を発掘調査した研究者の直筆資料である書簡も追加指定されました。 出典・写真： <a href="https://k-bunkazai.com/cultural/a-i-10150/">https://k-bunkazai.com/cultural/a-i-10150/</a> (かごしま文化財事典プラス)

名称	大隅石(オオスマライト)標本 (おおすみらいとひょうほん)
区分	県指定記念物(天然記念物・地質鉱物)
指定年月日	令和3年4月23日
所在地	鹿児島県立博物館
所有者	鹿児島県
概要・写真	姶良カルデラの周辺に分布する流紋岩に黒っぽい2～3mmの大きさの鉱物が見つかることがあります。この鉱物は、桜島と大隅半島の付け根の部分である垂水市において世界で最初に発見されたことから、「大隅石(オオスマライト)」と命名されました。「おおすみ」の名前がつけられた貴重な鉱物です。大規模な火砕流が起こった姶良カルデラの最後の噴火は約2.9万年前とされており、それよりも前に噴出した流紋岩に含まれる「大隅石(オオスマライト)」はカルデラ形成を伴う大噴火のメカニズ

	<p>ムを解明する上でも貴重な文化財です。</p> <p>出典・写真：<a href="https://k-bunkazai.com/cultural/d-o-40196/">https://k-bunkazai.com/cultural/d-o-40196/</a> (かごしま文化財事典プラス)</p>
--	---

名称	<p><b>旧島津家天神脇別邸 主屋 石蔵</b></p> <p>(きゅうしまづけてんじんわきべってい しゅおく いしぐら)</p>
区分	県指定有形文化財(建造物)
指定年月日	令和7年4月30日指定、令和8年に名称変更・追加指定
所在地	鹿児島市吉野町9685番地
所有者	一般財団法人陽山美術館
概要・写真	<p>旧島津家別邸は、異人館に近く、磯海水浴場と旧街道越しに鹿児島湾を望む石垣で囲まれた微高地に位置します。明治43年に建てられた主屋は「表座敷」と「奥座敷」の二棟で構成し、桜島を望み南北に並んでいます。</p> <p>「仙巖園御殿」と同様の畳割の建築工法や一間幅広縁と板張縁を用いて表座敷と奥座敷を結んでいます。座敷境には、表裏の両面に絵が描かれた板絵があります。敷地全体が保全されている貴重な建造物です。</p> <p>出典・写真：<a href="https://k-bunkazai.com/cultural/a-h-10172/">https://k-bunkazai.com/cultural/a-h-10172/</a> (かごしま文化財事典プラス)</p>

## ・市指定文化財

名称	<p><b>清泉寺跡</b>(せいせんじあと)</p>
区分	市指定記念物(史跡)
指定年月日	令和4年4月21日
所在地	鹿児島市下福元町
所有者	個人
概要	<p>清泉寺跡は、中世前期に創建され、15世紀前期に川辺寶福寺の末寺として再興された。それ以降、曹洞宗寺院として明治2年(1869)廃仏毀釈により廃寺になるまで、数多くの石造物が造られ続けており、その後の若干の改変はあるものの、廃寺の時点の様子をかなり良好な状態で残している。</p>

	また、元禄14年(1701)に建立されたとされる島津大和守久章墓の五輪塔は、県下最大規模のものであるとともに、新城島津家との関係を示す遺物も発掘調査で確認されている。
写真	

名称	安藤照作 西郷隆盛銅像 (あんどうてるさく さいごうたかもりどうぞう)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和12年(1937)
指定年月日	令和4年4月21日
所在地	鹿児島市城山町
所有者	鹿児島市
概要	<p>安藤照は、明治25年(1892)に鹿児島市で生まれた。鹿児島二中を経て、東京美術学校彫刻科に入学、在学中に帝国美術院展覧会に入選、その後も連続して特選になるなど、目覚ましい活躍をした。</p> <p>美術学校で師事した朝倉文夫の影響を受け、写実的な表現を身につけるが、やがて塊人社を結成し、彫刻を「量のかたまり」としてとらえ、量感の表現の追及へと進むようになる。</p> <p>恰幅の良い西郷の体型を、大将の軍服姿で表現した安藤照の「西郷隆盛像」は、体型の似たモデルを用いたとされ、写実的人体表現を基本としながら、鹿児島における西郷隆盛観を象徴的に表現した作品といえる。</p> <p>6メートル近い像の制作は、相当な大事業であったと推察でき、安藤の力量の</p>

	限りを尽くした傑作であり、安藤の代表作ともいえる。未来を見据えるかのような正面向きの顔、揺るぎない不動の立ち姿の西郷像は、市井の人々の精神的な拠所として確固たる存在感を示している。
写真	

名称	新納忠之介作 西王母像 (にいろちゅうのすけさく せいおうぼどう)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和 17 年(1942)
指定年月日	令和 5 年 4 月 17 日
所在地	鹿児島市城山町 鹿児島市立美術館
所有者	鹿児島市
概要	<p>作者の新納忠之介は、明治元年(1868)に鹿児島市新照院町で生まれ、東京美術学校(現:東京藝術大学)を卒業後、同校の助教授となる。</p> <p>師の岡倉天心とともに東京美術学校を追われた後は、奈良の日本美術院(現:美術院国宝修理所)で国宝調査や修復事業に努めた。明治 29 年から昭和 21 年までの 48 年間、修理した仏像や神像は 2,631 点に上る。</p> <p>本作品は、新納忠之介の貴重なオリジナル作品の一つである。左足をやや前方に出して立ち、緩やかに体軀を回転させる流麗なムーブメントを持つ構成は、彫刻家・新納としての挑戦的な姿勢が感じられる。極彩色に着色された衣装の表現は、細部に至るまで丁寧に仕上げられ、究極のリアリズムを追求しつつ、神格化された女神のおやかさと品格が備わった作品に仕上がっている。</p>



名称	新納忠之介作 西王母 (にいろちゅうのすけさく せいおうぼ)
区分	市指定有形文化財(彫刻)
制作年	昭和 24 年(1949)
指定年月日	令和 5 年 4 月 17 日
所在地	鹿児島市城山町 鹿児島市立美術館
所有者	鹿児島市
概要	<p>修復家として活躍した新納忠之介の貴重な晩年のオリジナル作品で、永年の仏像修復の経験から得た、木彫や彩色技術が見事に結実した格調高い作品である。シンメトリーの立ち姿で表現され、女神らしいふくよかさと威厳が感じられる。持物の桃(右手)と青鳥の羽(左手)は、吉祥の到来を予感させるように、正面性を生かした存在感を見せており、像本体と絶妙な調和をなしている。「修復師・新納」が「彫刻家・新納」としての力量をも裏付けた傑作といえる。</p>

写真

